

# 記入要領

診調組 技-7-5  
16.10.7

病院基本情報  
調査票

許可病床数

① 病床数は医療法の規定に基づき使用許可を受けている病床数を記入してください。

② 職員数については2004年10月の実績を記入してください。9月のデータがない場合は最も新しい月の実績を記入し、年月を明記してください。

看護要員数

③ ここでいう非常勤職員とは、パートタイマー・アルバイト等、勤務時間が常勤職員より短い者です。各人ごとに病棟に勤務した述べ時間数を常勤職員の所定労働時間と比例計算によって常勤換算し、これらの勤務者全員の常勤加算人数を合算し小数点以下を切り捨て記入してください。

看護師の教育背景

④ 准看護師を除き、看護師のみについて記入してください。専門（看護）に係る学歴のみを記入してください。

WOC看護に係る研修

⑤ ここでいう研修とは院内外を問わずWOC看護に係る研修を受けたものを全て記入してください。WOC看護とETの欄には、有資格者を記入してください。

WOC看護師

⑥ ここでいうWOC看護師とは、院外の研修を受けてWOC看護に関する資格を有する者で（WOC認定看護師、ET、日本ストーマリハビリテーション学会等の資格が含まれます）。

⑤ 専従のWOC看護師とは、主任・師長等の管理業務や病棟における夜勤を行わず、WOCケアおよびWOCケアの指導教育に専従している看護師を指します。

褥瘡患者個票	調査の対象	① 対象となる患者様は、 <u>調査開始時に仙骨部または大転子部に真皮の創傷（褥瘡患者個票Ⅳ「深さ」2）以上の褥瘡があり、調査開始から3週間に渡り褥瘡の観察が可能な20歳以上の方</u> です。
	調査票記入者	② 平成16年10月から12月31日に入院中①に該当する患者様全てについて調査票をご記入ください。 ③ 患者個票は該当患者様毎に褥瘡ケアチームの看護師が記入してください。 ④ 患者個票Ⅰは、調査開始時に記入してください。 ⑤ 患者個票Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは、調査開始時、調査開始から1週間後、2週間後、3週間後に日付とともに記入してください。
	身長・体重	⑥ 身長・体重は、調査開始時の直近の値を記入してください。
	他科受診の有無	⑦ 他科受診は、受診科名を記入してください。
	傷病名	⑧ 傷病名・副傷病名は、別添資料を参考にICD-10の中分類コードを記入してください。副傷病名については、主なものひとつをICD-10の中分類コード記入してください。
	入院基本料	⑨ 入院基本料は、直近のものを記入してください。
	褥瘡管理加算	⑩ 褥瘡管理加算は、直近の申請状況を記入してください。
	糖尿病の既往	⑪ 糖尿病の既往「有」の場合の治療状況は、内服薬、インスリン注射を行っている場合に「現在、治療中」としてください。
	ステロイドの長期使用	⑫ ステロイドの長期使用とは、調査開始時に過去3ヶ月以上ステロイドを使用していた場合に「有」としてください。
	放射線照射	⑬ 放射線照射は、調査期間内に放射線照射を行った場合に「有」としてください。
	麻痺の有無	⑭ 麻痺の有無は、調査期間内の状態について記入してください。
	過去の褥瘡の有無・褥瘡発生状況	⑮ 褥瘡の部位4, 5, 6については、左右どちらか、または両方であれば番号に○をつけてください。
	日常生活自立度	⑯ 日常生活自立度は、調査開始時の直近の基本診療料の施設基準の褥瘡に関する危険因子評価票届出に用いたものを記入してください。
	褥瘡に関する危険因子	⑰ 褥瘡に関する危険因子は、調査開始時の直近の基本診療料の施設基準の褥瘡に関する危険因子評価票届出に用いたものを記入してください。
	栄養摂取の方法	⑱ 栄養摂取の方法は、調査開始時の状況を記入してください。調査期間中に状況が変化したときは、該当する番号全てに○をつけ、日付を記入してください。
	NSTの介入	⑲ NSTの介入は、調査開始時の状況を記入してください。調査期間中に状況が変化したときは、該当する番号全てに○をつけ、日付を記入してください。
	調査開始時の生化学データ	⑳ 調査開始時の生化学データは調査開始時の直近のものを日付とともに記入してください。

ストーリー  
マ患者  
個票

調査の対象

- ① 対象となる患者様は、人工肛門造設術を目的として10～12月に入院し、入院時に治療を必要とする合併症のない20歳以上の方です。
- ② 10月から12月31日までに入院中で②に該当し、術前から観察の可能な患者様すべてについて、調査票をご記入ください。
- ③ 調査は、術前、術後2週間、退院から1～2ヶ月の外来受診時に行います。術後2週間以内に退院した場合は、退院日まで調査を行ってください。外来受診時のQOL調査にあたっては、別紙にて本調査への同意を得てください。
- ④ 該当する患者様がいない場合には、施設票の備考欄にその旨をご記入ください。
- ⑤ 身長・体重は、調査開始時の直近の値を記入してください。
- ⑥ 日常生活自立度は、入院前の状態について以下に示す「障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」に従い記入してください。全く障害の無い場合は「9 障害なし」としてください。

身長・体重

日常生活自立度

生活自立	ランク J	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1 交通機関等を利用して外出する 2 隣近所へなら外出する
准寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1 介助により外出し、日中は殆どベッドから離れて生活する 2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ 1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2 介助により車椅子に移乗する
	ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1 自力で寝返りをうつ 2 自力で寝返りもうたない

同居家族等

- ⑦ 同居家族等は、入院時の状況を記入してください。退院時または退院後のフォローアップ時に変化があった場合はその旨を記入してください。

仕事の有無

- ⑧ 仕事の有無は、入院時の状況を記入してください。退院時または退院後のフォローアップ時に変化があった場合はその旨を記入してください。

傷病名

- ⑨ 傷病名・副傷病名は、別添のICD-10の中分類までのコードを記入してください。副傷病名については、主なものひとつを選択し、別添のICD-10の中分類までのコードを記入してください。

ストーマ造設と なった原因	⑩ ストーマ造設を説明する診断名を記入してください（例：クローン氏病）
治療方針	⑪ 治療方針は、入院時のものを記入してください。
糖尿病の既往	⑫ 糖尿病の既往「有」の場合の治療状況は、内服薬、インスリン注射を行っている場合に「現在、治療中」としてください。
ステロイドの長期使用	⑬ ステロイドの長期使用とは、調査開始時に過去3ヶ月以上ステロイドを使用していた場合に「有」としてください
ストーマの種類	⑭ ストーマの種類は、ダブルストーマの場合は2つに○をつけてください。
ストーマの形状	⑮ ストーマの形状は、退院までの状況について該当するもの全てに○をつけてください。
ストーマ局所の合併症	⑯ ストーマ局所の合併症は、退院までの状況について該当するもの全てに○をつけてください。
術後合併症の状況	⑰ 術後合併症の状況は、退院までの状況について該当するもの全てに○をつけてください。
退院後の行き先	⑱ 退院後の行き先は、退院時に記入してください。
初回外来受診予定日	⑲ 初回外来受診予定日は、退院時に記入してください。
退院後の QOL 調査	⑳ 退院後の QOL 調査は、退院後1～2ヶ月の外来受信日に行ってください。調査票の記入に際しては、別添の説明書にて説明を行い、同意を得られた患者様のみ同意書への署名およびアンケートの記入を依頼してください。視力や筆記能力により、記入が困難な場合は、看護師が聞き取り、記入してください。

## 傷病名一覧

疾病大分類	疾病中分類(主傷病に◎・副傷病に○)	
1. 感染症および寄生虫症	1. 肺結核 2. 脊椎カリエス	3. 陳旧性肺結核 4. その他の感染症および寄生虫症
2. 新生物	5. 胃癌(術後を含む) 6. 大腸癌 7. 直腸癌 8. 肝癌 9. 肺癌 10. 乳癌 11. 子宮癌	12. 前立腺癌 13. 膀胱癌 14. 多発性骨髄腫 15. 脳腫瘍 16. その他の悪性新生物 17. その他の新生物
3. 血液及び造血器の疾患・並びに免疫機構の障害	18. 鉄欠乏性貧血 19. 貧血 20. 特発性血小板減少性紫斑病	21. その他の血液及び造血器の疾患、並びに免疫機構の障害
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患	22. 甲状腺機能低下症 23. 糖尿病性腎症 24. 糖尿病性神経障害	25. 糖尿病 26. その他の糖尿病 27. その他の内分泌、栄養及び代謝疾患
5. 精神及び行動の障害	28. 脳梗塞性痴呆 29. 脳動脈硬化性痴呆(脳血管性痴呆) 30. 痴呆(混合性痴呆) 31. 老人性痴呆、老年期痴呆 32. 統合失調症 33. 躁うつ病	34. 老人性うつ病 35. うつ病 36. うつ状態 37. その他の痴呆 38. その他の統合失調症 39. その他の精神及び行動の障害
6. 神経系の疾患	40. ALS 41. 筋萎縮性側索硬化症 42. パーキンソン病(症候群) 43. アルツハイマー病(痴呆) 44. 脊髄小脳変性症 45. 脳萎縮 46. 多発性硬化症 47. てんかん 48. 筋ジストロフィー	49. 片麻痺(脳梗塞後片マヒ) 50. マヒ(右)(左) 51. シャイ・ドレーガー症候群 52. 低酸素脳症 53. 頸髄症 54. その他のパーキンソン病 55. その他のアルツハイマー病 56. その他の神経系の疾患
7. 眼及び付属器の疾患	57. 白内障(右)(左) 58. その他の眼及び付属器の疾患	
8. 耳及び乳様突起の疾患	59. メニエール症候群 60. その他の耳及び乳様突起の疾患	
9. 循環器系の疾患	61. 高血圧症 62. 本能性高血圧症 63. 高血圧性心疾患(心臓病) 64. 狭心症 65. 心筋梗塞(急性) 66. 心筋梗塞後遺症 67. 陳旧性心筋梗塞 68. 虚血性心疾患(虚血性心臓病) 69. 心房細動 70. 不整脈 71. うっ血性心不全 72. 心不全(慢性) 73. クモ膜下出血(術後含む) 74. 脳出血(脳内出血) 75. 多発性脳梗塞 76. 脳血栓(症) 77. 脳梗塞(小脳梗塞) 78. 脳動脈瘤術後	79. 脳動脈硬化症 80. 脳軟化症 81. 慢性脳循環不全症 82. 脳血管障害(脳血管疾患) 83. クモ膜下出血後遺症 84. 脳出血後遺症 85. 多発性脳梗塞後遺症 86. 陳旧性脳梗塞 87. 脳梗塞後遺症 88. 脳卒中後遺症 89. 脳血管障害後遺症 90. 動脈硬化症 91. 閉塞性動脈硬化症 92. その他の高血圧系疾患 93. その他の心疾患 94. その他の脳血管疾患 95. その他の循環器系の疾患
10. 呼吸器系の疾患	96. 肺炎 97. 慢性気管支炎 98. 肺気腫 99. 慢性閉塞性肺疾患 100. 気管支喘息	101. 肺線維症 102. 特発性間質性肺炎 103. 慢性呼吸不全 104. 呼吸不全 105. その他の呼吸器系の疾患
11. 消化器系の疾患	106. 胃潰瘍 107. 慢性胃炎 108. 腸閉塞 109. 便秘	110. 慢性肝炎 111. 肝硬変 112. 胆石症 113. その他の消化器系の疾患
12. 皮膚及び皮下組織の疾患	114. 褥そう 115. その他の皮膚及び皮下組織の疾患	

**別添資料**

<p>13. 筋骨格系及び結合組織の疾患</p>	<p>116. 悪性関節リウマチ 117. RA 118. リウマチ性(様)関節炎 119. 関節リウマチ 120. 慢性関節リウマチ(ロイマチス) 121. 関節炎(右)(左) 122. (変形性)股関節症 123. (変形性)関節症 124. 全身性エリテマトーデス 125. 多発性筋炎 126. 変形性腰椎症</p>	<p>127. 変形性脊椎症 128. 脊柱(椎)管狭窄(脊髓狭窄) 129. 後縦靭帯骨化症 130. 座骨神経痛 131. 腰痛症 132. 癱用症候群 133. リウマチ(慢性) 134. 骨粗鬆症による骨折 135. 骨粗鬆症 136. その他の骨粗鬆症 137. その他の筋骨格系及び結合組織の疾患</p>
<p>14. 尿路性器系の疾患</p>	<p>138. 慢性腎炎 139. 慢性腎不全 140. 腎不全</p>	<p>141. 神経因性膀胱 142. 前立腺肥大症 143. その他の尿路性器系の疾患</p>
<p>15. 妊娠、分娩及び産褥</p>	<p>144. 妊娠、分娩及び産褥</p>	
<p>16. 周産期に発生した病態</p>	<p>145. 周産期に発生した病態</p>	
<p>17. 先天奇形、変形及び染色体異常</p>	<p>146. 先天奇形、変形及び染色体異常</p>	
<p>18. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</p>	<p>147. 老衰 148. その他の症状、特徴及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</p>	
<p>19. 損傷、中毒及びその他の外因の影響</p>	<p>149. 硬膜下血腫 150. 腰椎圧迫骨折 151. 大腿骨頭部骨折 152. 大腿骨転子間骨折 153. 大腿骨骨折</p>	<p>154. 脊髄損傷 155. 脳挫傷後遺症 156. 頭部外傷後遺症 157. 大腿骨骨折後遺症 158. その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響</p>
<p>20. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用</p>	<p>159. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用</p>	